今週（8月24日から8月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は、450兆円程度から始まり、国債の発行などで440兆円台後半に減少したものの、27日の新型コロナ対応金融支援オペによる資金供給を受け、460兆円台前半まで増加した。無担保コールO/N物は、国内勢の調達を中心に▲0.06～▲0.03%のレンジでの出合いで始まった。25日以降は調達レートを切り下げる動きが見られ、無担保コールO/N加重平均レートは日を追う毎に低下した。週末の28日も調達ニーズは限定的で、▲0.075～▲0.04%のレンジでの出合いとなった。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.03%近辺での出合いが散見された。

26日には、新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、133,538億円の貸付が行われた（期落ち額17,292億円）。同オペの残高は27日時点で350,169億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、先週から発行が連続で行われていたこともあって、週を通して資金調達ニーズがしっかりしていた。出合い水準は概ね▲0.090～▲0.060%程度だった。

SC個別銘柄では、2Y402～415、5Y136～144、10Y335～359、20Y167～173、30Y59～67、40Y9～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は、3M物はややしつかりの推移となった一方で、相次ぐ入札による需給悪化懸念などから、6M物や1Y物は全体的に軟調な推移となった。その後、26日に行われた短国買入オペにより若干の需給回復が見られたことから、週後半は3M物～1Y物まで底堅く推移する展開となった。

24日に実施された6M物の入札は、WI取引において、▲0.133～▲0.118%での出合いが見られたものの、平均落札利回▲0.1110%、按分落札利回▲0.1011%と、やや弱めな結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.110%出合いと、底堅い推移となった。

26日に実施された短国買入オペは、前回オペから3回の発行を経たこともあり、3兆円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.003%と、無難な結果となった。

28日に実施された3M物の入札は、WI取引において、▲0.089～▲0.085%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0898%、按分落札利回▲0.0862%と、WIを反映したしっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーからか、▲0.120～▲0.115%出合いと強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は月末週であったものの、多くの企業が前倒しで長い期間の調達をしている影響からか、償還総額1兆円程度に対して、発行総額9,800億円程度と若干の償還超のマーケットとなった。月末発行を中心に、陸運、食料品、電気機器等の業態で大型の発行が見られたほか、鉄鋼、機械、紙・パルプ等の業態でもまとまった額の発行が見られた。市場発行残高は、先週に引き続き過去最高水準で推移しており、27日には26兆826億円と、8月6日の25兆9,485億円を上回り過去最高残高を更新した。発行レートについては8月18日に実施されたCP等買入オペのレート低下の影響からか、大半の銘柄で低下が見られ、マイナス圏での推移となった。

26日にはCP等買入オペが6,000億円を実施された。8月18日のCP等買入オペが札割れによりレートが低下したことから、さらなるレートの低下が期待されていたが、月末の玉の入替ニーズが先行したためか、結果は応札額が9,802億円、平均落札レート▲0.023%、按分落札レート▲0.028%と前回（平均▲0.017%・全取▲0.058%）比で平均は低下し、按分は上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/24（月）	22,985.51	0.020	105.79	△ 0.041	△ 0.067	4,505,700
8/25（火）	23,296.77	0.029	106.00	△ 0.048	△ 0.067	4,481,600
8/26（水）	23,290.86	0.040	106.45	△ 0.051	△ 0.079	4,476,900
8/27（木）	23,208.86	0.040	105.92	△ 0.054	△ 0.084	4,635,700
8/28（金）	22,882.65	0.055	106.65	△ 0.054	△ 0.079	4,648,400

来週（8月31日から9月4日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
8/31 (月)	7月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 7月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 8月の消費動向調査(内閣府 14:00) 7月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)			8月のシカゴPM景況感指数
9/1 (火)	7月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 7月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 4-6月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	10Y 26,000億円 9/2発行		7月の米建設支出 8月のISM 製造業景況指数 8月のユーロ圏消費者物価指数速報値
9/2 (水)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 8月のマネタリーベース(日銀 8:50)			米ページブック 7月の米製造業新規受注・出荷・在庫
9/3 (木)	9月の日銀当座預金増減要因見込み	30Y 9,000億円 9/4発行	交付税借入 10,000億円 9/11借入	7月の米貿易収支 8月のISM 非製造業景況指数
9/4 (金)		TB3M 75,500億円 9/7発行		8月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/31 (月)	400	4,200	4,600	国債買入 CP買入		2,100	▲ 800	3,800	TB3M発行▲75500償還76700 交付税借入▲10000期日10500
9/1 (火)	1,000	▲ 36,000	▲ 35,000		▲ 2,900		0	▲ 35,000	財政融資資金の回収 2Y発行▲30000償還8000
9/2 (水)	1,000	▲ 51,000	▲ 50,000	成長基盤	▲ 4,400		▲ 4,400	▲ 54,400	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税 労働保険料揚げ 10Y発行▲26000 交付税借入▲10000期日10500
9/3 (木)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
9/4 (金)	0	▲ 7,000	▲ 7,000	国債売現先(米ドル)	1,000		1,000	▲ 6,000	30Y発行▲9000 交付税借入▲10000期日10500
週間合計	2,400	▲ 93,800	▲ 91,400	—	▲ 6,300	2,100	▲ 4,200	▲ 95,600	

8/31は日銀予想、9/1以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期の後半に入るが、取り急ぐような動きは見られていないことから、無担保コールO/N加重平均レートは横ばい圏で推移するものと見込まれる。レポ市場は、積み期間後半に入ること、資金ニーズの動向が注目される。短国市場は、4日に3M物の入札が実施予定となっている。入札需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、1日に予定されている短国買入オペのオフアール額にも注目したい。CP市場は、9月3日にCP等買入オペが6,000億円を実施予定となっている。月初にあたることで発行案件も膨らみにくく、前回オペからの間隔も短いことから、按分レートがどの程度で決着するのか注目される。

主要なイベントは、1日に8月のユーロ圏消費者物価指数、2日にページブック、4日に8月の米国雇用統計等が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまよう願ひ申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入